



平成 20 年 10 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社 大 分 銀 行
 代 表 社 名 取締役頭取 小 倉 義 人
 コード番号 8 3 9 2 (東証一部、福証)
 本店所在地 大分市府内町3丁目4番1号
 問 合 せ 先 総合企画部長 児玉 雅紀
 (TEL. 097-534-1111)

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 8 月 11 日に公表しました平成 21 年 3 月期第 2 四半期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日) 及び通期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日) の業績予想について、下記のとおり修正しますのでお知らせいたします。

記

1. 単体業績予想の修正

(1) 平成 21 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	経 常 収 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想 (A)	27,800	△2,500	△1,500
今回修正予想 (B)	27,900	△12,500	△7,600
増 減 額 (B-A)	100	△10,000	△6,100
増 減 率 (%)	0.4%	△400%	△406.7%
(ご参考)前中間期実績 (平成 19 年 9 月期)	29,181	3,971	2,496

(2) 平成 21 年 3 月期 通期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	経 常 収 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	55,500	2,300	1,400
今回修正予想 (B)	55,300	△11,500	△7,100
増 減 額 (B-A)	△200	△13,800	△8,500
増 減 率 (%)	△0.4%	△600%	△607.1%
(ご参考)前期実績 (平成 20 年 3 月期)	57,676	9,815	5,645

2. 連結業績の予想の修正

(1) 平成21年3月期 第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	33,200	△2,200	△1,400
今回修正予想 (B)	33,400	△12,100	△7,500
増減額 (B-A)	200	△9,900	△6,100
増減率 (%)	0.6%	△450%	△435.7%
(ご参考)前中間期実績 (平成19年9月期)	34,784	4,296	2,588

(2) 平成21年3月期 通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	66,400	2,800	1,600
今回修正予想 (B)	66,100	△10,800	△6,900
増減額 (B-A)	△300	△13,600	△8,500
増減率 (%)	△0.5%	△485.7%	△531.3%
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	68,753	9,588	5,653

3. 業績予想の修正理由

(1) 単体業績予想修正の理由

① 第2四半期累計期間

景気後退局面の進行に加えて金融危機の顕在化、不動産市場の低迷などにより、8月以降、当行のお取引先の中にも急速に業況が悪化している先が見られることから、将来の貸倒れリスクに備えた予防的な手当てを万全なものにするため、より踏み込んだ査定を行い、大幅な貸倒引当金の積み増しを行うことと致しました。

具体的には、より保守的に債務者区分の判定を行ったほか、要管理先のDCF法適用基準を与信残高30億円以上から10億円以上に引き下げを行いました。

さらに、米国金融市場の混乱に端を発した株式市場の低迷等を受け、保有有価証券の償却額が当初予想に比べ増加したことなどにより、経常利益及び中間純利益は、平成20年8月11日発表の業績予想を下回る見込みとなりました。

② 通期

第2四半期累計期間の修正による影響のほか、景気の後退予想に加え金融市場の混乱による有価証券関係の償却等の増加を織り込んだことなどから修正するものです。

なお、今年度に発生する当期未処理損失につきましては、翌期に繰り越さず、別途積立金の一部取り崩しにより対応する予定であり、資本金、資本準備金等の毀損はありません。

(2) 連結業績予想修正の理由

単体業績予想の修正によるものであります。

4. 配当方針

当行は、安定した配当を継続的に行うことを基本方針としており、本年5月に公表しましたとおり、1株当たり3円（年間6円）とさせていただきます予定であります。

※本資料は、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後のさまざまな要因により異なる結果となる可能性があります。

（ご参考）平成21年3月期 単体業績予想

（単位：百万円）

	今回予想	前回予想	増 減	20/9 期予想
経常収益	55,300	55,500	△200	27,900
コア業務純益	13,000	13,400	△400	6,700
一般貸倒引当金繰入額	8,200	3,300	4,900	7,700
業務純益	4,400	9,900	△5,500	△1,300
不良債権処理額	13,700	7,200	6,500	10,200
経常利益	△11,500	2,300	△13,800	△12,500
当期（中間）純利益	△7,100	1,400	△8,500	△7,600

- （注） 1. 不良債権処理額＝個別貸倒引当金繰入額＋貸出金償却＋債権売却損等
2. 前回予想は、平成20年8月11日に公表した業績予想

なお、本件に関するお問い合わせは次にお願いたします。
総合企画部広報調査グループ TEL097-534-1111 （内線 1570）

以 上

今後の業績回復への取組み

今回、当行は将来の貸倒れリスクに備えた予防的な手当てを万全のものにするため、より踏み込んだ査定を行い、大幅な貸倒引当金の積み増しを行いました。これにより今後の与信費用は減少する見込みであり、本業の儲けを示すコア業務純益は順調に推移しておりますので、平成21年度は黒字になる見込みであります。

1. 収益の増強に向けて

第6次中期経営計画から取り組んでいる提案営業力の高度化を通して、お客さまの信頼や満足度を向上させることで、収益機会の増大に繋げてまいります。また各種営業強化策にも取組み、収益の増強を図ってまいります。

- (1) 事業性貸出金の増強では、医業、農林水産業、自動車関連産業、シップファイナンスといった大分県内で成長性の高い4分野での取組みを強化いたします。営業統括部に4名体制で医療推進チームを設置しているほか、農林水産業担当者、シップファイナンス担当者、自動車関連産業担当者を設置し、専門知識を持った本部スタッフと営業店が一体となって推進してまいります。あわせて、事業承継対策、NPO活用によるIT関連投資支援等への取組みの実施により、お客さまのニーズへの確にお応えし、満足度の向上を図ってまいります。
- (2) 個人ローンの増強では、大分・別府のローンプラザを中心とした住宅業者の囲い込みと案件発掘により住宅ローンやアパートローンを推進してまいります。また、お客さまのニーズに対応した商品や各種チャネルを活用した無担保ローンの拡販に取り組んでまいります。
- (3) 役務収益の増強では、国債・投資信託・生命保険・外貨預金等の拡販を推進していくとともに、シ・ローン、私募債（エコ私募債）や外為関連業務（クーポンスワップ）等の法人分野に積極的に取り組んでまいります。
- (4) その他、本部機能強化による営業店支援体制の強化、法人営業担当者向け営業支援システムの構築で、提案営業の高度化をサポートします。あわせて、若手行員・中堅行員の育成を目的として立ち上げる「行内塾（仮称）」において、提案営業等に関する人材育成を図ってまいります。また、店舗戦略の強化、職域営業の強化も推進してまいります。

2. 与信費用の削減

今回の中間期・通期決算赤字の主要因は与信費用の増加であり、お取引先の実態

把握、経営改善に向けた支援をさらに強化し、営業店・本部・大分ベンチャーキャピタル株式会社をはじめとした関連会社が一体となって、信用リスク低減による与信費用の削減を進めてまいります。また、お取引先の支援強化に取り組める人材の育成にも継続的に取り組んでまいります。

3. 経費の削減に向けて

- (1) 顧客サービス向上や営業推進・事務効率化において喫緊に必要とされる投資は、投資内容・金額をより精緻化し、投資額を可能な限り抑えることも検討して、取り組んでまいります。
- (2) このほか、喫緊に必要とされる投資以外につきましては、投資時期を見直すなどにより、当面の間、見送ることも含めて、行内での経費の削減等はこれまで以上に行ってまいります。

以上

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。